

RXファミリ

M3S-TFAT-Tiny メモリドライバインタフェースモジュール

Firmware Integration Technology

要旨

本アプリケーションノートでは、Firmware Integration Technology (以降、FIT)を使用した M3S-TFAT-Tiny メモリドライバインタフェースについて説明します。

本モジュールは、FIT を使用した RX ファミリ オープンソース FAT ファイルシステム M3S-TFAT-Tiny と各メモリドライバとをつなぐメモリドライバインタフェースです。

FIT モジュールについては、

https://www.renesas.com/ja-jp/solutions/rx-applications/fit.html

をご覧ください。

本書では以下のとおり用語を使い分けます。

• TFAT FIT:

RX ファミリ用 オープンソース FAT ファイルシステム M3S-TFAT-Tiny モジュール FIT (R20AN0038)

TFAT driver FIT :

RX ファミリ用 M3S-TFAT-Tiny メモリドライバインタフェースモジュール FIT (R20AN0335)

• TFAT :

M3S-TFAT-Tiny、または、TFAT FIT と TFAT driver FIT の総称

本アプリケーションノートで提供されるドライバインタフェースモジュールで対応しているメモリドライバは、SD メモリカード(SD モード)、SD メモリカード(SPI モード)、USB メモリ、USB Mini、eMMC、Serial Flash memory の 5 つです。使用するには、下記 FIT モジュールが必要です。

機能	ミドルウェア製品	ウェブページ
ファイルシステム (※1)	オープンソース FAT ファイルシス テム M3S-TFAT-Tiny モジュール	http://www.renesas.com/mw/tfat-rx
SD メモリカードドライバ (※2)	SD モード SD メモリカードドライ バ SD メモリーカードドライバ(SPI	https://www.renesas.com/driver/rtm 0rx0000dsdd
	モード)	
USB ドライバ (※2)	USB Basic Host and Peripheral Driver	http://www.renesas.com/driver/usb
	USB Host Mass Storage Class Driver (HMSC)	
USB Mini ドライバ (※2)	USB Basic Mini Host and Peripheral Driver (USB Mini Firmware)	http://www.renesas.com/driver/usb
	USB Host Mass Storage Class Driver for USB Mini Firmware	
eMMC ドライバ(※2)	MMC モード MMCIF ドライバ	https://www.renesas.com/jp/ja/prod ucts/software-tools/software-os- middleware- driver/mmc/multimediacard-emmc-
Serial Flash memory ドライ バ(※2)	Serial Flash memory アクセスクロック同期式制御モジュール	driver-for-rx-family.html https://www.renesas.com/in/ja/prod ucts/software-tools/software-os- middleware-driver/serial- memory/spi-qspi-serial-flash- driver.html

※1 必須です。

※2 どちらか一方の入手で構いません。お使いの評価環境に応じて入手してください。

対象デバイス

RX ファミリ

本アプリケーションノートを他のマイコンへ適用する場合、そのマイコンの仕様に合わせて変更し、十分評価してください。

対象コンパイラ

- · Renesas Electronics C/C++ Compiler Package for RX Family
- ・GCC for Renesas RX (RX23W はサポートしていません。)
- · IAR C/C++ Compiler for Renesas RX

各コンパイラの動作確認内容については 6.1 動作確認環境を参照してください。

関連ドキュメント

- RX ファミリ ボードサポートパッケージモジュール Firmware Integration Technology (R01AN1685)
- RX ファミリ オープンソース FAT ファイルシステム M3S-TFAT-Tiny モジュール Firmware Integration Technology (R20AN0038)
- RX ファミリ SD モード SD メモリカードドライバ Firmware Integration Technology (R01AN4233)
- RX ファミリ SPI モード SD メモリカードドライバ Firmware Integration Technology (R01AN6908)
- RX ファミリ USB Basic Host and Peripheral Driver Firmware Integration Technology (R01AN2025)
- RX ファミリ USB Host Mass Storage Class Driver (HMSC) Firmware Integration Technology (R01AN2026)
- RX ファミリ USB Basic Mini Host and Peripheral Driver (USB Mini Firmware) Firmware Integration Technology (R01AN2166)
- RX ファミリ USB Host Mass Storage Class Driver for USB Mini Firmware Firmware Integration Technology (R01AN2169)
- RX ファミリ MMC モード MMCIF ドライバ Firmware Integration Technology (R01AN4234)
- RX ファミリ Serial Flash memory アクセスクロック同期式制御モジュール Firmware Integration Technology (R01AN2662)
- RX ファミリ システムタイマモジュール Firmware Integration Technology (R20AN0431)

目次

1.	概要	6
1.1	本アプリケーションノートについて	6
1.2	アプリケーションの概要	7
1.2.1	アプリケーション構成	7
1.2.2	ソフトウェア構成	8
1.3	API の概要	10
1.4	制限事項	10
2.	API 情報	11
2.1	ハードウェア要件	11
2.2	ソフトウェア要件	11
2.3	サポートされているツールチェーン	11
2.4	使用する割り込みベクタ	11
2.5	ヘッダファイル	11
2.6	整数型	11
2.7	コンパイル時の設定	12
2.8	コードサイズ	14
2.9	引数	15
2.10	戻り値	15
2.11	FIT モジュールの追加方法	16
2.12	for 文、while 文、do while 文について	17
3.	API 関数	18
3.1	disk_initialize()	19
3.2	disk_status()	20
3.3	disk_read()	21
3.4	disk_write()	23
3.5	disk_ioctl()	25
3.6	get_fattime()	27
3.7	drv_change_alloc()	28
4.	内部関数	29
4.1	USB メモリ用	29
4.1.1	usb_disk_initialize	30
4.1.2		
4.1.3	usb_disk_write	32
4.1.4		
4.1.5	usb_disk_status	34
4.1.6		
4.2	 SD メモリカード用	
4.2.1		
4.2.2		
4.2.3		
4.2.4	sdmem_disk_ioctl	40

RX ファミリ

M3S-TFAT-Tiny メモリドライバインタフェースモジュール Firmware Integration Technology

4.2.5	sdmem_disk_status	41
4.3	SPI モード SD メモリカード用	42
4.3.1	spi_sdmem_disk_initialize	43
4.3.2	spi_sdmem_disk_read	44
4.3.3	spi_sdmem_disk_write	45
4.3.4	spi_sdmem_disk_ioctl	46
4.3.5	spi_sdmem_disk_status	47
4.4	USB Mini 用	48
4.4.1	usb_mini_disk_initialize	49
4.4.2	usb_mini_disk_read	50
4.4.3	usb_mini_disk_write	51
4.4.4	usb_mini_disk_ioctl	52
4.4.5	usb_mini_disk_status	53
4.4.6	R_usb_mini_hmsc_WaitLoop	54
4.5	eMMC 用	55
4.5.1	mmcif_disk_initialize	56
4.5.2	mmcif_disk_read	57
4.5.3	mmcif_disk_write	58
4.5.4	mmcif_disk_ioctl	59
4.5.5	mmcif_disk_status	60
4.6	Serial Flash Memory 用	61
4.6.1	flash_spi_disk_initialize	62
4.6.2	flash_spi_disk_read	63
4.6.3	flash_spi_disk_write	64
4.6.4	flash_spi_disk_ioctl	65
4.6.5	flash_spi_disk_status	66
4.6.6	flash_spi_1ms_interval	67
5. วี	端子設定	68
6. 1	付録	69
		69
	トラブルシューティング	
7. 🗧	参考ドキュメント	74
テクニ	ニカルアップデートの対応について	74
改訂詞	記録	75

RXファミリ

M3S-TFAT-Tiny メモリドライバインタフェースモジュール Firmware Integration Technology

1. 概要

1.1 本アプリケーションノートについて

本アプリケーションノートでは、TFAT FIT と各記憶デバイス用のメモリドライバとをつなぐメモリドライバインタフェースについて説明します。

メモリドライバインタフェースは、コンフィグファイルの変更によって制御対象を切り替えることができます。

本モジュールで提供する API は、TFAT FIT から呼び出されます。ユーザ側で新たに呼び出す必要はありません。

TFAT FIT で管理するドライブ番号と SD メモリカードドライバなどのデバイス・ドライバで管理するドライブ番号は等しくありません。その為、本モジュール内で変換テーブルを持っています。初期値は、コンフィグレーション設定で決まります。動的に変更したい場合は、3.7 drv_change_alloc()を参照してください。

1.2 アプリケーションの概要

1.2.1 アプリケーション構成

本アプリケーションノートは、以下のものから構成されています。

表 1.1 アプリケーションノート構成

	ファイル/ディレクトリ名	内容
FITMo	odules	
r_tf	at_driver_rx_v2.50.xml	FIT プラグイン XML
r_tf	at_driver_rx_v2.50_extend.mdf	スマート・コンフィグレータ 設定ファイル
r_tf	at_driver_rx_v2.50.zip	FIT プラグイン ZIP
	コンフィグレーション (r_config)	
	r_tfat_driver_rx_config.h	コンフィグレーションファイル(デフォルト設定)
FIT Module 本体 (r_tfat_driver_rx)		
	ドキュメント(doc)	
	英語版(en)	
	r20an0335ej0250-rx-tfat.pdf	アプリケーションノート(英語版)
	日本語版(ja)	
	r20an0335jj0250-rx-tfat.pdf	アプリケーションノート(日本語版)
	ソースコード(src)	
	readme (readme.txt)	readme
	r_tfat_driver_rx_if.h	ヘッダファイル

1.2.2 ソフトウェア構成

TFAT driver FIT は、TFAT FIT、システムタイマモジュール FIT、および、各種デバイス・ドライバ FIT を併用して動作します。

TFAT FIT はオープンソース FatFs を内部に含む、ファイルシステムの主モジュールです。TFAT driver FIT は内部に Wrapper 関数をもち、記憶デバイスごとにファイルシステム用の I/O 処理を切り替えます。 ユーザは TFAT driver FIT のコンフィギュレーション設定で使用する記憶デバイスを設定し、TFAT FIT のAPI を介してファイルシステムを操作します。

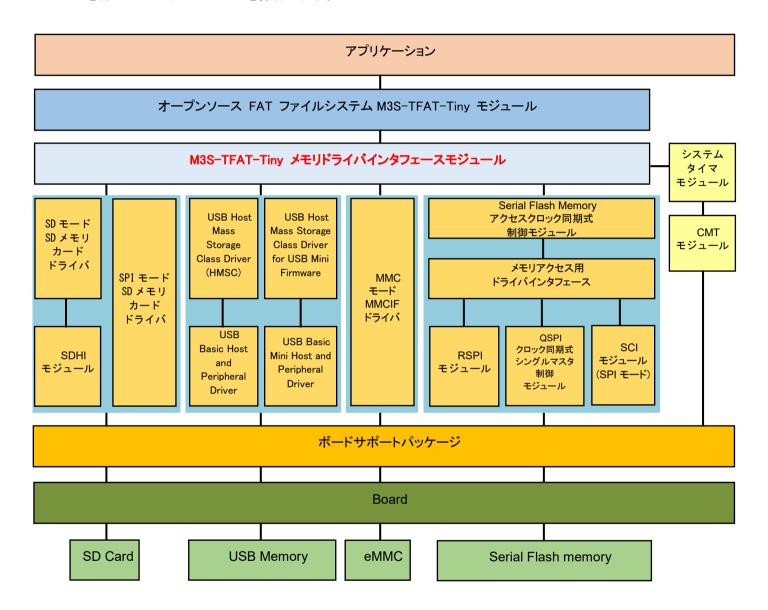


図 1-1 ソフトウェア構成図

表 1.2 使用した FIT モジュールバージョン

記憶デバイス	FIT モジュール	Rev.
共通	ボードサポートパッケージ(BSP)	7.51
	TFAT	4.12
	システムタイマモジュール	1.01
	CMT モジュール	5.70
SD カード	SD モード SD メモリカードドライバ	3.00
(SD モード)	SDHI モジュール	2.11
SD カード	SD メモリーカードドライバ(SPI モード)	1.10
(SPI モード)	RSPI モジュール	3.50
	SCI モジュール (SPIモード)	5.30
USBメモリ	USB Basic Host and Peripheral Driver	1.42
	USB Host Mass Storage Class Driver	1.42
	USB Basic Host and Peripheral Driver (USB Mini Firmware)	1.20
	USB Host Mass Storage Class Driver for USB Mini Firmware	1.20
eMMC	MMC モード MMCIF ドライバ	1.10
Serial Flash	Serial Flash memory アクセスクロック同期式制御モジュール	3.30
memory	メモリアクセス用ドライバインタフェース	1.20
	RSPI モジュール	3.50
	QSPI クロック同期式シングルマスタ制御モジュール	1.21
	SCI モジュール (SPIモード)	5.30

1.3 API の概要

表 1.3 に本 FIT モジュールに含まれる API 関数を示します。

表 1.3 API 関数一覧

関数	関数説明
disk_initialize()	ディスク・ドライブの初期化
disk_status()	ディスク・ドライブ状態取得
disk_read()	ディスクからの読み出し
disk_write()	ディスクへの書き込み
disk_ioctl()	その他のドライブ制御
get_fattime()	日付・時刻の取得
drv_change_alloc()	TFAT モジュールのドライブ番号とメモリドライバの ドライブ番号との関連付け変更

1.4 制限事項

- (1) TFAT の対象デバイスは、TFAT より下位層でユーザが使用する全ての FIT でサポートされているデバイスです。各 FIT の対象デバイスはそれぞれのアプリケーションノートをご覧ください。
- (2) USB Basic Host and Peripheral Driver (USB Mini Firmware) FIT 及び USB Host Mass Storage Class Driver for USB Mini Firmware FIT はそれぞれ Rev.1.20 以上を使用してください。 これらの FIT の Rev.1.20 は RTOS に対応しているためです。

RXファミリ

M3S-TFAT-Tiny メモリドライバインタフェースモジュール Firmware Integration Technology

2. API 情報

2.1 ハードウェア要件

ご使用になる MCU が以下の機能をサポートしている必要があります。

- USB
- SDHI
- CMT

2.2 ソフトウェア要件

本 FIT モジュールは、以下のパッケージに依存しています。

- r bsp (Rev.5.52 以上)
- r_tfat_rx (Rev.4.12 以上)
- r_sys_time_rx (Rev.1.01 以上)
- r_cmt_rx (Rev.4.40 以上)

使用するメモリドライバの種類は r_tfat_driver_rx_config.h で設定することができます。

2.3 サポートされているツールチェーン

本 FIT モジュールは、各メモリドライバがサポートしているツールチェーンに依存します。

2.4 使用する割り込みベクタ

TFAT driver FIT では割り込みベクタを使用しません。

2.5 ヘッダファイル

すべての API 呼び出しはこのソフトウェアのプロジェクトコードとして提供されている 1 個のファイル「r_tfat_driver_rx_if.h」をインクルードすることによって行われます。

ビルドタイムのコンフィグレーションオプションは、ファイル「r_tfat_driver_rx_config.h」で選択または 定義されます。

2.6 整数型

このプロジェクトでは、コードをわかりやすく、移植性をより大きくするために、ANSI C99 の固定長整数型(exact width integer type)を使用しています。これらの型は stdint.h で定義されています。

2.7 コンパイル時の設定

本 FIT モジュールのコンフィギュレーションオプションの設定は、r_tfat_driver_rx_config.h で行います。

オプション名および設定値に関する説明を下表に示します。

Configuration	options in r_tfat_driver_rx_config.h
#define	USB メモリとして割り当てるドライブ数
TFAT_USB_DRIVE_NUM	未使用時は(0)としてください。
- Default value = (0)	
#define	SD メモリカードとして割り当てるドライブ数
TFAT_SDMEM_DRIVE_NUM	未使用時は(0)としてください。
- Default value = (0)	, ,
#define	SPI モード SD メモリカードとして割り当てるドライブ数
TFAT_SPI_SDMEM_DRIVE_NUM	未使用時は(0)としてください。
- Default value = (0)	
#define	USB メモリ(Mini)として割り当てるドライブ数
TFAT_USB_MINI_DRIVE_NUM	未使用時は(0)としてください。
- Default value = (0)	
#define	eMMC として割り当てるドライブ数
TFAT_MMC_DRIVE_NUM	未使用時は(0)としてください。
- Default value = (0)	
#define	Serial Flash memory として割り当てるドライブ数
TFAT_SERIAL_FLASH_DRIVE_NUM	未使用時は(0)としてください。
- Default value = (0)	
#define	TFAT および Serial Flash Memory を使用する場合のセクタ
TFAT_FLASH_SECTOR_SIZE	サイズを定義します。以下から1つ選択してください。
- Default value = (4096)	
	512 バイト = (512)
	1024 バイト = (1024)
	2048 バイト = (2048)
	4096 バイト = (4096)
#define	各ドライブ番号に対して使用するデバイスを割り当てます。
TFAT_DRIVE_ALLOC_NUM_i	
i = 0~9	USB メモリで使用するドライブ = (TFAT_CTRL_USB)
- Default value = (TFAT_CTRL_NONE)	SD メモリカードで使用するドライブ= (TFAT_CTRL_SDMEM)
	USB メモリ(Mini)で使用するドライブ= (TFAT_CTRL_USB_MINI)
	eMMC で使用するドライブ = (TFAT_CTRL_MMC)
	Serial Flash memory で使用するドライブ
	= (TFAT_CTRL_SERIAL_FLASH)
	使用しないドライブ = (TFAT_CTRL_NONE) としてください。
	2000,
	│ │このデータを元に、TFAT FIT のドライブ番号とメモリドライ
	│ このデータを元に、IFALFILのトライフ番号とメモリトライ │ バのドライブ番号との関連付けを行います。メモリドライバ
	ハのトライラ番号との関連的りを行います。メモリトライハ のドライブ番号は、昇順に割り当てられます。動的に変更し
	のドブイブ番号は、弁順に割り当てられます。動的に変更し たい場合は、3.7 drv_change_alloc() を参照してください。
#define	RI600V4 を使用する場合、RI600V4 コンフィギュレーション
RI600V4 MUTEX ID FOR TFAT	RI600V4 を使用する場合、RI600V4 コンフィキュレーション で設定するミューテックス ID を指定してください。
DRIVE ALLOC NUM i	「一〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
i = 0~9	
1 = 0 - 3	

Configuration	n options in r_tfat_driver_rx_config.h
- Default value = (0)	このミューテックスは、TFAT の API がリエントラント性を 獲得する(ドライブ上のファイル/ディレクトリの排他的アク セスを行う)ために使用されます。
	RI600V4 使用時、かつ、当該ドライブ使用時は(1~255)の値としてください。各ドライブで異なる値(ミューテックス ID)を使用してください。
	RI600V4、または、当該ドライブ未使用時は(0)としてください。各ドライブは(0)を重複できます。

2.8 コードサイズ

本 FIT モジュールの ROM サイズ、RAM サイズ、最大使用スタックサイズを下表に示します。RX100 シリーズ、RX200 シリーズ、RX600 シリーズから代表して 1 デバイスずつ掲載しています。

ROM (コードおよび定数) と RAM (グローバルデータ) のサイズは、ビルド時の「2.7 コンパイル時の設定」のコンフィギュレーションオプションによって決まります。

下表の値は下記条件で確認しています。

モジュールリビジョン: r_tfat_driver_rx Rev.2.50

コンパイラバージョン: Renesas Electronics C/C++ Compiler Package for RX Family V3.06.00

(統合開発環境のデフォルト設定に"-lang = c99"オプションを追加)

GCC for Renesas RX 8.3.0.202405

(統合開発環境のデフォルト設定に"-std=gnu99"オプションを追加)

IAR C/C++ Compiler for Renesas RX version 5.10.1

(統合開発環境のデフォルト設定)

コンフィグレーションオプション: デフォルト設定

	ROM、RAM およびスタックのコードサイズ			
デバイス	分類	使用メモリ		
		Renesas Compiler	GCC	IAR Compiler
RX113	ROM ^(注)	6,516 バイト	7, 688 バイト	8,657 バイト
	RAM ^(注)	26 バイト	8バイト	56 バイト
	スタック ^(注)	192 バイト	-	348 バイト
RX231	ROM ^(注)	6,517 バイト	7,688 バイト	8,659 バイト
	RAM ^(注)	26 バイト	8バイト	56 バイト
	スタック ^(注)	192 バイト	-	348 バイト
RX65N	ROM ^(注)	6,517 バイト	7,688 バイト	8,652 バイト
	RAM ^(注)	26 バイト	8バイト	58 バイト
	スタック ^(注)	192 バイト	-	352 バイト

注:TFAT FIT モジュールの ROM/RAM/スタックサイズが含まれています。

2.9 引数

TFAT FIT の API を呼び出す際のドライブ番号の定義としてご使用ください。

```
typedef enum
{
    TFAT_DRIVE_NUM_0 = 0x00,
    TFAT_DRIVE_NUM_1,
    TFAT_DRIVE_NUM_2,
    TFAT_DRIVE_NUM_3,
    TFAT_DRIVE_NUM_4,
    TFAT_DRIVE_NUM_5,
    TFAT_DRIVE_NUM_6,
    TFAT_DRIVE_NUM_7,
    TFAT_DRIVE_NUM_8,
    TFAT_DRIVE_NUM_9,
}TFAT_DRIVE_NUM;
```

2.10 戻り値

それぞれ TFAT FIT モジュールの"diskio.h"で定義されています。

```
/* Disk Status Bits (DSTATUS) */
typedef uint8 t DSTATUS;
#define STA NOINIT 0x01 /* Drive not initialized */
#define STA NODISK 0 \times 02 /* No medium in the drive */
#define STA PROTECT 0x04 /* Write protected */
/* Results of Disk Functions */
typedef enum
 RES OK = 0, /* 0: Successful */
 RES ERROR,
              /* 1: R/W Error */
 RES WRPRT,
             /* 2: Write Protected */
             /* 3: Not Ready */
 RES_NOTRDY,
 RES PARERR
              /* 4: Invalid Parameter */
} DRESULT;
```

2.11 FIT モジュールの追加方法

本 FIT モジュールは、使用するプロジェクトごとに追加する必要があります。ルネサスでは、スマート・コンフィグレータを使用した(1)、(2)、(4)の追加方法を推奨しています。ただし、スマート・コンフィグレータは、一部の RX デバイスのみサポートしています。サポートされていない RX デバイスについては(3)の方法を使用してください。

- (1) e^2 studio 上でスマート・コンフィグレータを使用して FIT モジュールを追加する場合 e^2 studio のスマート・コンフィグレータを使用して、自動的にユーザプロジェクトに FIT モジュールを追加します。詳細は、アプリケーションノート「RX スマート・コンフィグレータ ユーザーガイド: e^2 studio 編(R20AN0451)」を参照してください。
- (2) CS+上でスマート・コンフィグレータを使用して FIT モジュールを追加する場合 CS+上で、スタンドアロン版スマート・コンフィグレータを使用して、自動的にユーザプロジェクトに FIT モジュールを追加します。詳細は、アプリケーションノート「RX スマート・コンフィグレータ ユーザーガイド: CS+編 (R20AN0470)」を参照してください。
- (3) CS+上で FIT モジュールを追加する場合 CS+上で、手動でユーザプロジェクトに FIT モジュールを追加します。詳細は、アプリケーションノート「RX ファミリ CS+に組み込む方法 Firmware Integration Technology (R01AN1826)」を参照してください。
- (4) IAREW 上でスマート・コンフィグレータを使用して FIT モジュールを追加する場合 スタンドアロン版スマート・コンフィグレータを使用して、自動的にユーザプロジェクトに FIT モジュールを追加します。詳細は、アプリケーションノート「RX スマート・コンフィグレータ ユーザーガイド: IAREW 編 (R20AN0535)」を参照してください。

2.12 for 文、while 文、do while 文について

本モジュールでは、レジスタの反映待ち処理等で for 文、while 文、do while 文(ループ処理)を使用しています。これらループ処理には、「WAIT_LOOP」をキーワードとしたコメントを記述しています。そのため、ループ処理にユーザがフェイルセーフの処理を組み込む場合は、「WAIT_LOOP」で該当の処理を検索できます。

以下に記述例を示します。

```
while 文の例:
/* WAIT LOOP */
while(0 == SYSTEM.OSCOVFSR.BIT.PLOVF)
   /* The delay period needed is to make sure that the PLL has stabilized.*/
}
for 文の例:
/* Initialize reference counters to 0. */
/* WAIT_LOOP */
for (i = 0; i < BSP REG PROTECT TOTAL ITEMS; i++)
{
    g_protect_counters[i] = 0;
}
do while 文の例:
/* Reset completion waiting */
    reg = phy_read(ether_channel, PHY_REG_CONTROL);
    count++;
} while ((reg & PHY CONTROL RESET) && (count < ETHER CFG PHY DELAY RESET)); /* WAIT LOOP */
```

3. API 関数

TFAT FIT モジュールから本関数群は呼び出されます。ここに記載された一部例外を除く関数は、コンフィグレーション設定に応じて、記憶デバイスの種類ごとに用意された下位層の関数を呼び分けます。下位層の関数は、「4 内部関数」に記載しています。

以下の関数をアプリケーション・プログラム側から呼び出さないでください。

表 3.1 関数一覧

関数名	機能概要
disk_initialize()	ディスク・ドライブの初期化
disk_status()	ディスク・ドライブの状態取得
disk_read()	ディスクからの読み込み
disk_write()	ディスクへの書き込み
disk_ioctl()	その他のドライブ制御
get_fattime()	日付・時刻の取得
drv_change_alloc()	TFAT モジュールのドライブ番号とメモリドライバのドライブ番号(もしくはチャンネル番号)との関連付けの変更

3.1 disk initialize()

disk initialize 関数はストレージデバイスを初期化するために呼び出されます。

Format

Parameters

pdrv

ターゲット・デバイスを識別するための物理ドライブ番号。 シングル・ドライブシステムでは常にゼロです。

Return Values

この関数は結果として現在のドライブステータスフラグを返します。 ドライブの状態の詳細については、disk status 関数を参照してください。

Properties

ファイル diskio.h にプロトタイプ宣言されています。

Description

この機能は記録メディアを初期化し、それを通常のリード/ライト準備状態にします。関数が成功すると、戻り値の STA_NOINIT フラグがクリアされます。

備考:この関数は FatFs モジュールの管理下にある必要があります。アプリケーション・プログラムはこの関数を呼んではいけません。さもないと、ボリューム上の FAT 構造体が壊れる可能性があります。 ファイルシステムを再初期化するには、代わりに f mount 関数を使用してください。

Example

なし

Special Notes:

なし

3.2 disk_status()

この関数は、現在のドライブステータスを問い合わせるために呼び出されます。

Format

Parameters

pdrv

ターゲット・デバイスを識別するための物理ドライブ番号。 シングル・ドライブシステムでは常にゼロです。

Return Values

現在のドライブステータスは、下記のステータスフラグの組み合わせで返されます。FatFs は STA NOINIT と STA PROTECT のみを参照します。

STA_NOINITI

デバイスが初期化されておらず、動作の準備ができていないことを示します。このフラグは、システムリセット、メディアの取り外し、または disk_initialize 関数の失敗時に設定されます。disk_initialize 関数が成功するとクリアされます。非同期に発生したメディアの変更はすべてキャプチャしてステータスフラグに反映させる必要があります。さもないと、自動マウント機能が正しく機能しません。システムがメディア変更検出をサポートしていない場合、アプリケーション・プログラムはメディア変更のたびに f_mount 関数でボリュームを明示的に再マウントする必要があります。

STA NODISK

ドライブにメディアがないことを示します。これは固定ディスク・ドライブでは常にクリアされます。 FatFs はこのフラグを参照しないことに注意してください。

STA PROTECT

メディアが書き込み保護されていることを示します。これは書き込み保護機能のないドライブで常にクリアされます。 STA NODISK が設定されている場合は無効です。

Properties

ファイル diskio.h にプロトタイプ宣言されています。

Description

なし

Example

なし

Special Notes:

なし

3.3 disk read()

この関数は、記録メディアのセクタからデータを読み込むために呼び出されます。

Format

```
DRESULT disk_read (

BYTE pdrv, /* [IN] Physical drive number */

BYTE* buff, /* [OUT] Pointer to the read data buffer */

LBA_t sector, /* [IN] Start sector number */

UINT count /* [IN] Number of sectors to read */

);
```

Parameters

pdrv

ターゲット・デバイスを識別するための物理ドライブ番号。

buff

読み出しデータを格納するためのバイト配列の最初の項目へのポインタ。読み出しデータ・サイズはセクタ・サイズ×count バイトとなります。

sector

開始セクタ番号。32 ビット LBA で指定します。

count

読み出すセクタ数。

Return Values

RES_OK (0)

正常終了。

RES_ERRORA

読み出し操作中に回復不能なハードエラーが発生しました。

RES_PARERR

パラメータが不正です。

RES_NOTRDY

デバイスは初期化されていません。

Properties

ファイル diskio.h にプロトタイプ宣言されています。

Description

メモリカード、ハードディスク、光ディスクなどの一般的な記録メディアに対する読み書き操作は、セクタと呼ばれるデータ・バイトのブロック単位で行われます。FatFs は 512 から 4096 バイトの範囲のセクタ・サイズをサポートします。 FatFs が固定セクタ・サイズ(FF_MIN_SS = FF_MAX_SS、これは最もよくあるケースです)に設定されている場合、読み書き関数はそのセクタ・サイズで機能しなければなりません。FatFs が可変セクタ・サイズに設定されている場合(FF_MIN_SS < FF_MAX_SS)、disk_initialize 関数が成功した直後に disk_ioctl 関数を使用してメディアのセクタ・サイズを問い合わせます。

buff を介して渡されるメモリアドレスについては、いくつか考慮事項があります。引数は BYTE *として 定義されているため、必ずしもワード境界にアライメントされているわけではありません。アライメントされていない読み書き操作は直接転送で発生する可能性があります(FatFs アプリケーションノートを参照)。バスアーキテクチャ、特に DMA コントローラが、アライメントの合っていないメモリアクセスを許可しない場合は、disk_read 関数の中で解決する必要があります。その場合は、この問題を回避するために 以下に説明するいくつかの回避策があります。

- ·必要に応じて、この関数でワード転送をバイト転送に変換します。 おすすめです。
- ·f read () 呼び出しで、セクタ全体を含む長い読み出し要求を避けます。 直接転送は発生しません。

·f_read (fp、dat、btw、bw) 呼び出しで、(((UINT) dat & 3) == (f_tell(fp) & 3)) が true であることを確認してください。 - buff の Word アライメントは保証されています。

また、メモリ領域が DMA で到達できない可能性があります。これは、通常スタックに使用される密結合メモリ内にある場合です。ダブルバッファ転送を使用するか、スタック上のローカル変数として FATFS および FIL 構造体を含むファイル I/O バッファを定義しないでください。一般に、複数セクタの読み出し要求(count > 1)を記録メディアへの単一セクタ転送に分割しないでください。複数の単一セクタ転送に分解した場合、読み出しスループットが低下します。

Example

なし

Special Notes:

なし

3.4 disk write()

この関数は、記録メディアのセクタにデータを書き込むために呼び出されます。

Format

Parameters

pdrv

ターゲット・デバイスを識別するための物理ドライブ番号。

buff

書き込まれるバイト配列の最初の項目へのポインタ。書き込まれるデータのサイズはセクタ・サイズ×count バイトです。

sector

開始セクタ番号。32 ビット LBA で指定します。

count

書き込むセクタ数。

Return Values

RES_OK (0)

正常終了。

RES_ERROR

書き込み操作中に回復不能なハードエラーが発生しました。

RES WRPRT

メディアが書き込み禁止状態です。

RES_PARERR

パラメータが不正です。

RES_NOTRDY

デバイスは初期化されていません。

Properties

ファイル diskio.h にプロトタイプ宣言されています。

Description

引数はBYTE*として定義されているため、指定されたメモリアドレスは必ずしもワード境界にアライメントされているわけではありません。詳細は、disk_read 関数の Description を参照してください。

一般に、複数のセクタ書き込み要求(count > 1)を記録メディアへの単一セクタ転送に分割しないでください。複数の単一セクタ転送に分解した場合、ファイル書き込みスループットが大幅に低下します。

FatFs は、ディスク制御層の遅延書き込み機能を想定しています。進行中の書き込み操作、または、データがライトバックキャッシュへ格納されるのみによって、この関数から戻ってきますが、メディアへの書き込み操作が実際に完了している必要はありません。ただし、この関数から戻った後の buff への書き込みデータは無効です。書き込み完了の確認要求は、disk_ioctl 関数の CTRL_SYNC コマンドによって実行されます。 したがって、遅延書き込み機能を実装する場合、ファイルシステムの書き込みスループットは向上します。

備考:アプリケーション・プログラムはこの関数を呼び出してはいけません。呼び出すとボリューム上の FAT 構造体が壊れる可能性があります。

Example

なし

Special Notes:

FF_FS_READONLY = 1 の場合は使用できません。

3.5 disk ioctl()

この関数は、一般的なリード/ライト以外のデバイス固有の機能やその他の機能を制御するために呼び出されます。

Format

Parameters

pdrv

ターゲット・デバイスを識別するための物理ドライブ番号。

cmd

制御コマンド・コードを設定します。

buff

コマンドコードに依存するパラメータへのポインタ。コマンドがパラメータを持っているかどうかは確認 しません。

Return Values

RES_OK (0)

正常終了。

RES_ERROR

何らかのエラーが発生しました。

RES PARERR

コマンドコードまたはパラメータが不正。

RES_NOTRDY

デバイスは初期化されていません。

Properties

ファイル diskio.h にプロトタイプ宣言されています。

Description

物理ドライブの種類によりサポートされるコマンドは異なりますが、FatFs モジュールでは、次の汎用コマンドのみ使用し、特定のハードウェアやユーザ定義に依存した制御は行いません。

表 3.2 汎用コマンド

コマンド	解説
CTRL_SYNC	デバイスが書き込み処理を完了するのを待ちます。ディスク I / O モジュールまたは 記録メディアにライトバックキャッシュがある場合は、ダーティとしてマークされた キャッシュデータをすぐにメディアに書き戻します。メディアへの各書き込み操作が disk_write 関数内で完了した場合、このコマンドには何もしません。
GET_SECTOR_COUNT	ドライブ上の使用可能なセクタ数を、buff が指す DWORD 変数に返します。このコマンドは、作成するボリューム/パーティションのサイズを決定するために f_mkfs および f_fdisk 関数によって使用されます。 FF_USE_MKFS = 1 の場合は必須です。
GET_SECTOR_SIZE	デバイスのセクタ・サイズを buff が指す WORD 変数に返します。このコマンドの有効な戻り値は 512、1024、2048、および 4096 です。このコマンドは、FF_MAX_SS > FF_MIN_SS の場合にのみ必要です。FF_MAX_SS = FF_MIN_SS の場合、このコマンドは使用されず、デバイスはそのセクタ・サイズで動作する必要があります。
GET_BLOCK_SIZE	フラッシュメモリメディアの消去ブロックサイズをセクタ単位で、buff が指す DWORD 変数に返します。許容値は2の累乗で1から32768です。消去ブロックサイズが不明またはフラッシュメモリメディアでない場合は1を返します。このコマンドはf_mkfs 関数でのみ使用され、データ領域を消去ブロック境界に揃えようとします。FF_USE_MKFS=1の場合は必須です。
CTRL_TRIM	セクタブロックのデータが不要になり、データを消去できることをデバイスに通知します。 セクタブロックは、buff が指す DWORD 配列 {<開始セクタ>, <終了セクタ>} で設定されます。これは ATA デバイスの Trim と同じコマンドです。この機能がサポートされていないかフラッシュメモリデバイスではない場合、このコマンドは何もしません。FatFs は結果コードをチェックせず、セクタブロックがうまく消去されなかったとしてもファイル機能は影響を受けません。このコマンドは、クラスタチェーンの削除時および f_mkfs 関数内で呼び出されます。 FF_USE_TRIM = 1 の場合は必須です。

Example

なし

Special Notes:

FF_FS_READONLY = 1 かつ FF_MAX_SS = FF_MIN_SS の場合、disk_ioctl 関数を使用する必要はありません。

3.6 get fattime()

この関数は現在時刻を取得します。

Format

DWORD get fattime (void);

Return Values

現在のローカル・タイムが DWORD 値にパックされて返されます。ビット・フィールドは以下のとおりです。

bit31:25

1980年を起点とした年が0-127で入ります(37の場合、2017年)。

bit24:21

月が 1-12 の値で入ります。

bit20:16

日が 1-31 の値で入ります。

Bit15:11

時が 0-23 の値で入ります。

bit10:5

分が 0-59 の値で入ります。

bit4:0

秒/2 が 0-29 の値で入ります(25 の場合、50 秒)。

Properties

ファイル ff.h にプロトタイプ宣言されています。

Description

システムがリアルタイムクロックをサポートしていなくても、get_fattime 関数は有効な時間を返します。 ゼロが返された場合、ファイルには有効なタイムスタンプがありません。

Example

なし

Special Notes:

FF_FS_READONLY = 1 または FF_FS_NORTC = 1 の場合、この関数は不要です。

3.7 drv change alloc()

この関数はドライブ割り当てを変更します。この関数は FatFs とは無関係であり、Renesas 独自の APIです。

Format

Parameters

tfat drv

TFAT FIT 用の物理ドライブ番号。

dev type

デバイスのタイプ(TFAT_USB_DRIVE_NUM、TFAT_SDMEM_DRIVE_NUM、またはTFAT_USB_MINI_DRIVE_NUM)。

dev drv num

デバイス・ドライバ用のドライブ番号/デバイスチャネル。

Return Values

RES OK (0)

正常終了。

RES_ERROR

tfat_drv で指定した値が無効です。

Properties

ファイル r_tfat_driver_rx_if.h にプロトタイプ宣言されています。

Description

TFAT で使用するドライブは r_tfat_driver_rx_config.h の TFAT_DRIVE_ALLOC_NUM_i 定義によって指定し、ドライブ番号(TFAT)とメモリドライバのドライブ番号が関連付けられます。メモリドライバのドライブ番号は、昇順に自動で割り当てられます。

関連付けを動的に変更したい場合、この関数を使用します。

Example

なし

Special Notes:

なし

4. 内部関数

USB メモリ、SD メモリカード(SD モード)、SD メモリカード(SPI モード)、USB Mini、eMMC、および、Serial Flash memory 向けの関数が用意されています。それぞれの関数内でメモリドライバを呼び出します。

4.1 USB メモリ用

「2.7 コンパイル時の設定」の TFAT_USB_DRIVE_NUM と TFAT_DRIVE_ALLOC_NUM_i(i=0-9) で TFAT_CTRL USB が設定されている場合に表 4.1 の関数が呼び出されます。

表 4.1 関数一覧

関数名	機能概要
usb_disk_initialize	ディスク・ドライブの初期化
usb_disk_read	ディスクからの読み込み
usb_disk_write	ディスクへの書き込み
usb_disk_ioctl	その他のドライブ制御
usb_disk_status	ディスク・ドライブの状態取得

表 4.2 その他の関数一覧

関数名	機能概要
R_usb_hmsc_WaitLoop	データのリード/ライド完了待ち

RXファミリ

M3S-TFAT-Tiny メモリドライバインタフェースモジュール Firmware Integration Technology

4.1.1 usb_disk_initialize

本関数は、ディスク・ドライブの初期化を行います。

Format

```
#include "r_tfat_drv_if_dev.h"
DSTATUS usb disk initialize (uint8 t pdrv);
```

Parameters

pdrv 入力 初期化するドライブ番号を指定します。

Return Values

RES OK 正常終了

RES_OK 以外 「2.10 戻り値」に記載した関数実行後のディスクステータス

Description

USB ドライバの呼び出し制限(起動後、1度のみ)により、本 API では USB ドライバの初期設定は行っていません。ユーザ側での対応が必要です。

4.1.2 usb_disk_read

本関数は、ディスクからの読み込みを行います。

Format

Parameters

pdrv	入力	物理的なドライブ番号を指定します。
buff	出力	読み取りデータを格納するバッファを指すポインタ。
sector	入力	開始セクタ番号を論理ブロックアドレス(LBA)で指定します。
count	入力	読み取るセクタ数を指定します。値は 1~255 の範囲です。

Return Value

DRESULT 「2.10 戻り値」に記載した関数実行の結果

Description

この関数は、ディスク・ドライブからデータを読み取ります。読み取るデータ位置に関する詳細は引数で 指定します。

4.1.3 usb_disk_write

本関数は、ディスクへの書き込みを行います。

Format

Parameters

pdrv	入力	物理的なドライブ番号を指定します。
buff	入力	書き込むデータを格納するバッファを指すポインタ。
sector	入力	開始セクタ番号を論理ブロックアドレス(LBA)で指定します。
count	入力	書き込むセクタ数を指定します。値は 1~255 の範囲です。

Return Value

DRESULT 「2.10 戻り値」に記載した関数実行の結果

Description

この関数は、ディスク・ドライブにデータを書き込みます。書き込むデータに関する詳細は引数で指定します。

4.1.4 usb disk ioctl

本関数は、その他のドライブ制御を行います。

Format

Parameters

pdrv	入力	物理的なドライブ番号を指定します。
cmd	入力	コマンド値を指定します。コマンド値は常に0になります。
buff	入力	読み取りデータを格納するバッファを指すポインタ。

Return Value

DRESULT 「2.10 戻り値」に記載した関数実行の結果

Description

usb_disk_ioctl 関数は、すべての TFAT 関数の中で f_sync 関数によってのみ使用されます。 f_sync 関数をアプリケーションで使用しないユーザは、この特定のドライバインタフェース関数の実装をスキップすることができます。

アプリケーションでf sync 関数を使用する場合はコマンド CTRL SYNC を実装してください。

f_sync 関数をアプリケーションで使用するユーザは、この特定のドライバインタフェース関数を実装しなければなりません。 このドライバ関数は、保留中の書き込みプロセスを終了するためのコードから構成する必要があります。 ディスク I/O モジュールが書き戻しキャッシュを持つ場合、ダーティセクタは直ちにフラッシュされます。 f_sync 関数は、引数として渡すファイルオブジェクトと関連する保存されていないデータを保存します。

4.1.5 usb disk status

本関数は、ディスク・ドライブの状態取得を行います。

Format

```
#include " r_tfat_drv_if_dev.h "
DSTATUS usb disk status (uint8 t pdrv );
```

Parameters

pdrv 入力 物理的なドライブ番号を指定します。

Return Value

RES_OK 正常終了

RES OK 以外 「2.10 戻り値」に記載した関数実行後のディスクステータス

Description

この関数は、ディスクをチェックするコードから構成し、現在のディスクステータスを返します。ディスクステータスは、「2.10 戻り値」に記載するように3つの値のいずれかになります。 ディスクステータスは、ディスクステータスと関連するマクロを使用して戻り値を更新することにより、返すことができます。

4.1.6 R_usb_hmsc_WaitLoop 本関数は、データリード/ライドの完了待ちを行います。

Format

void R usb hmsc WaitLoop (void);

Parameters

なし

Return Value

なし

Description

処理内容の詳細は、USB ドライバ側のドキュメントをご参照ください。

4.2 SD メモリカード用

「2.7 コンパイル時の設定」の TFAT_SDMEM_DRIVE_NUM と TFAT_DRIVE_ALLOC_NUM_i(i=0-9) で TFAT_CTRL_SDMEM が設定されている場合に表 4.3 の関数が呼び出されます。

表 4.3 関数一覧

関数名	機能概要
sdmem_disk_initialize	ディスク・ドライブの初期化
sdmem_disk_read	ディスクからの読み込み
sdmem_disk_write	ディスクへの書き込み
sdmem_disk_ioctl	その他のドライブ制御
sdmem_disk_status	ディスク・ドライブの状態取得

[SD メモリカード使用時の注意]

初期設定、マウント処理、VDD電源電圧供給処理は、本モジュールでは行いません。SDメモリカードモジュールのドキュメントを参考にユーザ側で対応してください。それらの設定を行わないと本モジュールは正常動作しません。

4.2.1 sdmem disk initialize

本関数は、ディスク・ドライブの初期化を行います。

Format

```
#include " r_tfat_drv_if_dev.h "
DSTATUS sdmem disk initialize (uint8 t drive);
```

Parameters

drive 入力 初期化するドライブ番号を指定します。

Return Value

RES_OK 正常終了

RES_OK 以外 「2.10 戻り値」に記載した関数実行後のディスクステータス

Description

本関数では、SDメモリカードドライバの初期設定は行っていません。ユーザ側での対応が必要です。

4.2.2 sdmem disk read

本関数は、ディスクからの読み込みを行います。

Format

Parameters

drive 入力 物理的なドライブ番号を指定します。

buffer 出力 読み取りデータを格納するバッファを指すポインタ。

sector number 入力 開始セクタ番号を論理ブロックアドレス(LBA)で指定します。

sector_count 入力 読み取るセクタ数を指定します。値は 1~255 の範囲です。

Return Value

DRESULT 「2.10 戻り値」に記載した関数実行の結果

Description

SD メモリカードからデータを読み出します。ブロック毎に実施します。

4.2.3 sdmem disk write

本関数は、ディスクへの書き込みを行います。

Format

Parameters

buffer 入力 書き込みデータを格納するバッファを指すポインタ。

sector_number 入力 開始セクタ番号を論理ブロックアドレス(LBA)で指定します。

sector count 入力 書き込むセクタ数を指定します。値は 1~255 の範囲です。

Return Value

DRESULT 「2.10 戻り値」に記載した関数実行の結果

Description

SD メモリカードにデータを書き込みます。ブロック毎に実施します。

4.2.4 sdmem disk ioctl

本関数は、その他のドライブ制御を行います。

Format

Parameters

drive 入力 物理的なドライブ番号を指定します。

command 入力 コマンド値を指定します。コマンド値は常に0になります。

buffer 入力 読み取りデータを格納するバッファを指すポインタ。

Return Value

DRESULT 「2.10 戻り値」に記載した関数実行の結果

Description

sdmem_disk_ioctl 関数は、すべての TFAT 関数の中で f_sync 関数によってのみ使用されます。 f_sync 関数をアプリケーションで使用しないユーザは、この特定のドライバインタフェース関数の実装をスキップすることができます。

アプリケーションでf sync 関数を使用する場合はコマンド CTRL SYNC を実装してください。

 f_sync 関数をアプリケーションで使用するユーザは、この特定のドライバインタフェース関数を実装しなければなりません。 このドライバ関数は、保留中の書き込みプロセスを終了するためのコードから構成する必要があります。 ディスク I/O モジュールが書き戻しキャッシュを持つ場合、ダーティセクタは直ちにフラッシュされます。 f_sync 関数は、引数として渡すファイルオブジェクトと関連する保存されていないデータを保存します。

4.2.5 sdmem disk status

本関数は、ディスク・ドライブの状態取得を行います。

Format

```
#include " r_tfat_drv_if_dev.h "
DSTATUS sdmem_disk_status (uint8_t drive );
```

Parameters

drive 入力 物理的なドライブ番号を指定します。

Return Value

RES_OK 正常終了

RES OK 以外 「2.10 戻り値」に記載した関数実行後のディスクステータス

Description

この関数は、ディスクをチェックするコードから構成し、現在のディスクステータスを返します。ディスクステータスは、「2.10 戻り値」に記載するように3つの値のいずれかになります。 ディスクステータスは、ディスクステータスと関連するマクロを使用して戻り値を更新することにより、返すことができます。

4.3 SPIモードSDメモリカード用

「2.7 コンパイル時の設定」の TFAT_SDMEM_DRIVE_NUM と TFAT_DRIVE_ALLOC_NUM_i(i=0-9) で TFAT_CTRL_SDMEM が設定されている場合に表 4.3 の関数が呼び出されます。

表 4.4 関数一覧

関数名	機能概要
spi_sdmem_disk_initialize	ディスク・ドライブの初期化
spi_sdmem_disk_read	ディスクからの読み込み
spi_sdmem_disk_write	ディスクへの書き込み
spi_sdmem_disk_ioctl	その他のドライブ制御
spi_sdmem_disk_status	ディスク・ドライブの状態取得

[SPI モード SD メモリカード使用時の注意]

初期設定、マウント処理、VDD電源電圧供給処理は、本モジュールでは行いません。SPIモードSDメモリカードモジュールのドキュメントを参考にユーザ側で対応してください。それらの設定を行わないと本モジュールは正常動作しません。

4.3.1 spi_sdmem_disk_initialize

本関数は、ディスク・ドライブの初期化を行います。

Format

```
#include " r_tfat_drv_if_dev.h "
DSTATUS sdmem disk initialize (uint8 t drive);
```

Parameters

drive 入力 初期化するドライブ番号を指定します。

Return Value

RES_OK 正常終了

RES_OK 以外 「2.10 戻り値」に記載した関数実行後のディスクステータス

Description

本関数では、SPI モード SD メモリカードドライバの初期設定は行っていません。ユーザ側での対応が必要です。

4.3.2 spi_sdmem_disk_read 本関数は、ディスクからの読み込みを行います。

Format

Parameters

drive 入力 物理的なドライブ番号を指定します。

buffer 出力 読み取りデータを格納するバッファを指すポインタ。

sector_number 入力 開始セクタ番号を論理ブロックアドレス(LBA)で指定します。

sector_count 入力 読み取るセクタ数を指定します。値は 1~255 の範囲です。

Return Value

DRESULT 「2.10 戻り値」に記載した関数実行の結果

Description

SPIモードSD メモリカードからデータを読み出します。ブロック毎に実施します。

4.3.3 spi_sdmem_disk_write 本関数は、ディスクへの書き込みを行います。

Format

Parameters

buffer 入力 書き込みデータを格納するバッファを指すポインタ。

sector_number 入力 開始セクタ番号を論理ブロックアドレス(LBA)で指定します。

sector count 入力 書き込むセクタ数を指定します。値は 1~255 の範囲です。

Return Value

DRESULT 「2.10 戻り値」に記載した関数実行の結果

Description

SPIモードSD メモリカードにデータを書き込みます。ブロック毎に実施します。

4.3.4 spi sdmem disk ioctl

本関数は、その他のドライブ制御を行います。

Format

Parameters

drive 入力 物理的なドライブ番号を指定します。

command 入力 コマンド値を指定します。コマンド値は常に0になります。

buffer 入力 読み取りデータを格納するバッファを指すポインタ。

Return Value

DRESULT 「2.10 戻り値」に記載した関数実行の結果

Description

sdmem_disk_ioctl 関数は、すべての TFAT 関数の中で f_sync 関数によってのみ使用されます。 f_sync 関数をアプリケーションで使用しないユーザは、この特定のドライバインタフェース関数の実装をスキップすることができます。

アプリケーションでf sync 関数を使用する場合はコマンド CTRL SYNC を実装してください。

 f_sync 関数をアプリケーションで使用するユーザは、この特定のドライバインタフェース関数を実装しなければなりません。 このドライバ関数は、保留中の書き込みプロセスを終了するためのコードから構成する必要があります。 ディスク I/O モジュールが書き戻しキャッシュを持つ場合、ダーティセクタは直ちにフラッシュされます。 f_sync 関数は、引数として渡すファイルオブジェクトと関連する保存されていないデータを保存します。

4.3.5 spi_sdmem_disk status

本関数は、ディスク・ドライブの状態取得を行います。

Format

```
#include " r_tfat_drv_if_dev.h "
DSTATUS sdmem_disk_status (uint8_t drive );
```

Parameters

drive 入力 物理的なドライブ番号を指定します。

Return Value

RES_OK 正常終了

RES OK 以外 「2.10 戻り値」に記載した関数実行後のディスクステータス

Description

この関数は、ディスクをチェックするコードから構成し、現在のディスクステータスを返します。ディスクステータスは、「2.10 戻り値」に記載するように3つの値のいずれかになります。 ディスクステータス は、ディスクステータスと関連するマクロを使用して戻り値を更新することにより、返すことができます。

4.4 USB Mini 用

「2.7 コンパイル時の設定」の TFAT_USB_MINI_DRIVE_NUM と TFAT_DRIVE_ALLOC_NUM_i(i=0-9)で TFAT_CTRL_USB_ MINI が設定されている場合に表 4.4 の関数が呼び出されます。

表 4.5 関数一覧

関数名	機能概要
usb_mini_disk_initialize	ディスク・ドライブの初期化
usb_mini_disk_read	ディスクからの読み込み
usb_mini_disk_write	ディスクへの書き込み
usb_mini_disk_ioctl	その他のドライブ制御
usb_mini_disk_status	ディスク・ドライブの状態取得

表 4.6 その他の関数一覧

関数名	機能概要
R_usb_mini_hmsc_WaitLoop	データのリード/ライド完了待ち

RXファミリ

M3S-TFAT-Tiny メモリドライバインタフェースモジュール Firmware Integration Technology

4.4.1 usb mini disk initialize

本関数は、ディスク・ドライブの初期化を行います。

Format

#include " r_tfat_drv_if_dev.h "
DSTATUS usb_mini_disk_initialize (uint8_t drive);

Parameters

drive 入力 初期化するドライブ番号を指定します。

Return Value

RES_OK 正常終了

RES_OK 以外 「2.10 戻り値」に記載した関数実行後のディスクステータス

Description

USB ドライバの呼び出し制限(起動後、1度のみ)により、本 API では USB ドライバの初期設定は行っていません。ユーザ側での対応が必要です。

4.4.2 usb mini disk read

本関数は、ディスクからの読み込みを行います。

Format

Parameters

drive 入力 物理的なドライブ番号を指定します

buffer 出力 読み取りデータを格納するバッファを指すポインタ。

sector_number 入力 開始セクタ番号を論理ブロックアドレス(LBA)で指定します。

sector_count 入力 読み取るセクタ数を指定します。値は 1~255 の範囲です。

Return Value

DRESULT 「2.10 戻り値」に記載した関数実行の結果

Description

この関数は、ディスク・ドライブからデータを読み取ります。読み取るデータ位置に関する詳細は引数で 指定します。

4.4.3 usb_mini_disk write

本関数は、ディスクへの書き込みを行います。

Format

Parameters

raiailieteis		
drive	入力	物理的なドライブ番号を指定します。
buffer	入力	読み取りデータを格納するバッファを指すポインタ。
sector_number	入力	開始セクタ番号を論理ブロックアドレス(LBA)で指定します。
sector_count	入力	読み取るセクタ数を指定します。値は 1~255 の範囲です。

Return Value

DRESULT 「2.10 戻り値」に記載した関数実行の結果

Description

この関数は、ディスク・ドライブにデータを書き込みます。書き込むデータに関する詳細は引数で指定します。

4.4.4 usb mini disk ioctl

本関数は、その他のドライブ制御を行います。

Format

Parameters

drive 入力 物理的なドライブ番号を指定します。

command 入力 コマンド値を指定します。コマンド値は常に0になります。

buffer 入力 読み取りデータを格納するバッファを指すポインタ。

Return Value

DRESULT 「2.10 戻り値」に記載した関数実行の結果

Description

usb_mini_disk_ioctl 関数は、すべての TFAT 関数の中で f_sync 関数によってのみ使用されます。 f_sync 関数をアプリケーションで使用しないユーザは、この特定のドライバインタフェース関数の実装をスキップすることができます。

アプリケーションでf sync 関数を使用する場合はコマンド CTRL SYNC を実装してください。

f_sync 関数をアプリケーションで使用するユーザは、この特定のドライバインタフェース関数を実装しなければなりません。 このドライバ関数は、保留中の書き込みプロセスを終了するためのコードから構成する必要があります。 ディスク I/O モジュールが書き戻しキャッシュを持つ場合、ダーティセクタは直ちにフラッシュされます。 f_sync 関数は、引数として渡すファイルオブジェクトと関連する保存されていないデータを保存します。

RXファミリ

M3S-TFAT-Tiny メモリドライバインタフェースモジュール Firmware Integration Technology

4.4.5 usb mini disk status

本関数は、ディスク・ドライブの状態取得を行います。

Format

#include " r_tfat_drv_if_dev.h "
DSTATUS usb mini disk status (uint8 t drive);

Parameters

drive 入力 物理的なドライブ番号を指定します。

Return Value

RES_OK 正常終了

RES OK 以外 「2.10 戻り値」に記載した関数実行後のディスクステータス

Description

この関数は、ディスクをチェックするコードから構成し、現在のディスクステータスを返します。ディスクステータスは、「2.10 戻り値」に記載するように3つの値のいずれかになります。 ディスクステータスは、ディスクステータスと関連するマクロを使用して戻り値を更新することにより、返すことができます。

4.4.6 R_usb_mini_hmsc_WaitLoop 本関数は、データリード/ライドの完了待ちを行います。

Format

void R usb mini hmsc WaitLoop (void);

Parameters

なし

Return Value

なし

Description

処理内容の詳細は、USB ドライバ側のドキュメントをご参照ください。

4.5 eMMC 用

「2.7 コンパイル時の設定」の TFAT_MMC_DRIVE_NUM と TFAT_DRIVE_ALLOC_NUM_i(i=0-9) で TFAT_CTRL_MMC が設定されている場合に表 4.6 の関数が呼び出されます。

表 4.7 関数一覧

関数名	機能概要
mmcif_disk_initialize	ディスク・ドライブの初期化
mmcif_disk_read	ディスクからの読み込み
mmcif_disk_write	ディスクへの書き込み
mmcif_disk_ioctl	その他のドライブ制御
mmcif_disk_status	ディスク・ドライブの状態取得

4.5.1 mmcif_disk_initialize

本関数は、ディスク・ドライブの初期化を行います。

Format

#include " r_tfat_drv_if_dev.h "
DSTATUS mmcif disk initialize (uint8 t drive);

Parameters

drive 入力 初期化するドライブ番号を指定します。

Return Value

RES_OK 正常終了

RES_OK 以外 「2.10 戻り値」に記載した関数実行後のディスクステータス

Description

本関数では、eMMC ドライバの初期設定は行っていません。ユーザ側での対応が必要です。

4.5.2 mmcif disk read

本関数は、ディスクからの読み込みを行います。

Format

Parameters

drive 入力 物理的なドライブ番号を指定します。

buffer 出力 読み取りデータを格納するバッファを指すポインタ。

sector number 入力 開始セクタ番号を論理ブロックアドレス(LBA)で指定します。

sector_count 入力 読み取るセクタ数を指定します。値は 1~255 の範囲です。

Return Value

DRESULT 「2.10 戻り値」に記載した関数実行の結果

Description

eMMC からデータを読み出します。ブロック毎に実施します。

4.5.3 mmcif disk write

本関数は、ディスクへの書き込みを行います。

Format

Parameters

buffer 入力 書き込みデータを格納するバッファを指すポインタ。

sector_number 入力 開始セクタ番号を論理ブロックアドレス(LBA)で指定します。

sector count 入力 書き込むセクタ数を指定します。値は 1~255 の範囲です。

Return Value

DRESULT 「2.10 戻り値」に記載した関数実行の結果

Description

eMMC にデータを書き込みます。ブロック毎に実施します。

4.5.4 mmcif disk ioctl

本関数は、その他のドライブ制御を行います。

Format

Parameters

drive 入力 物理的なドライブ番号を指定します。

command 入力 コマンド値を指定します。指定できるコマンドは以下です。

· CTRL_SYNC

· GET SECTOR COUNT

· GET SECTOR SIZE

· GET BLOCK SIZE

· CTRL TRIM

buffer 入力 読み取りデータを格納するバッファを指すポインタ。

Return Value

DRESULT 「2.10 戻り値」に記載した関数実行の結果

Description

mmcif_disk_ioctl 関数は、すべての TFAT 関数の中で f_sync または f_mkfs 関数によってのみ使用されます。これらの関数をアプリケーションで使用しないユーザは、この特定のドライバインタフェース関数の実装をスキップすることができます。

アプリケーションで f_sync 関数を使用する場合はコマンド CTRL_SYNC を実装してください。

コマンド CTRL_SYNC は、保留中の書き込みプロセスを終了するためのコードから構成する必要があります。 ディスク I/O モジュールが書き戻しキャッシュを持つ場合、ダーティセクタは直ちにフラッシュされます。 f_sync 関数は、引数として渡すファイルオブジェクトと関連する保存されていないデータを保存します。

その他のコマンドについては、表 3.2 汎用コマンド をご覧ください。

4.5.5 mmcif disk status

本関数は、ディスク・ドライブの状態取得を行います。

Format

```
#include " r_tfat_drv_if_dev.h "
DSTATUS mmcif disk status (uint8 t drive );
```

Parameters

drive 入力 物理的なドライブ番号を指定します。

Return Value

RES_OK 正常終了

RES OK 以外 「2.10 戻り値」に記載した関数実行後のディスクステータス

Description

この関数は、ディスクをチェックするコードから構成し、現在のディスクステータスを返します。ディスクステータスは、「2.10 戻り値」に記載するように3つの値のいずれかになります。 ディスクステータスは、ディスクステータスと関連するマクロを使用して戻り値を更新することにより、返すことができます。

4.6 Serial Flash Memory 用

「2.7 コンパイル時の設定」の TFAT_SERIAL_FLASH_DRIVE_NUM と TFAT_DRIVE_ALLOC_NUM_i(i=0-9) で TFAT_CTRL_SERIAL_FLASH が設定されている場合に表 4.7 の 関数が呼び出されます。

表 4.8 関数一覧

関数名	機能概要
flash_spi_disk_initialize	ディスク・ドライブの初期化
flash_spi_disk_read	ディスクからの読み込み
flash_spi_disk_write	ディスクへの書き込み
flash_spi_disk_ioctl	その他のドライブ制御
flash_spi_disk_status	ディスク・ドライブの状態取得

表 4.9 その他の関数一覧

関数名	機能概要
flash_spi_1ms_interval	1 ms ごとに内部タイマ更新

4.6.1 flash spi disk initialize

本関数は、ディスク・ドライブの初期化を行います。

Format

```
#include " r_tfat_drv_if_dev.h "
DSTATUS flash_spi_disk_initialize (uint8_t drive);
```

Parameters

drive 入力 初期化するドライブ番号を指定します。

Return Value

RES_OK 正常終了

RES_OK 以外 「2.10 戻り値」に記載した関数実行後のディスクステータス

Description

本関数では、Serial Flash memory ドライバの初期設定は行っていません。ユーザ側での対応が必要です。

本関数が呼び出されたタイミングで Serial Flash memory がビジー状態またはエラー状態の場合、返り値はステータス STA NOINIT です。

4.6.2 flash_spi_disk_read 本関数は、ディスクからの読み込みを行います。

Format

Parameters

drive 入力 物理的なドライブ番号を指定します。

buffer 出力 読み取りデータを格納するバッファを指すポインタ。

sector_number 入力 開始セクタ番号を論理ブロックアドレス(LBA)で指定します。

sector_count 入力 読み取るセクタ数を指定します。値は 1~255 の範囲です。

Return Value

DRESULT 「2.10 戻り値」に記載した関数実行の結果

Description

Serial Flash memory からデータを読み出します。ブロック毎に実施します。

4.6.3 flash_spi_disk_write 本関数は、ディスクへの書き込みを行います。

Format

Parameters

i ai ailictei 3		
drive	入力	物理的なドライブ番号を指定します。
buffer	入力	書き込みデータを格納するバッファを指すポインタ。
sector_number	入力	開始セクタ番号を論理ブロックアドレス(LBA)で指定します。
sector_count	入力	書き込むセクタ数を指定します。値は 1~255 の範囲です。

Return Value

DRESULT 「2.10 戻り値」に記載した関数実行の結果

Description

Serial Flash memory にデータを書き込みます。ブロック毎に実施します。

4.6.4 flash spi disk ioctl

本関数は、その他のドライブ制御を行います。

Format

Parameters

drive 入力 物理的なドライブ番号を指定します。

command 入力 コマンド値を指定します。指定できるコマンドは以下です。

· CTRL_SYNC

· GET SECTOR COUNT

· GET SECTOR SIZE

· GET BLOCK SIZE

· CTRL TRIM

buffer 入力 読み取りデータを格納するバッファを指すポインタ。

Return Value

DRESULT 「2.10 戻り値」に記載した関数実行の結果

Description

flash_spi_disk_ioctl 関数は、すべての TFAT 関数の中で f_sync または f_mkfs 関数によってのみ使用されます。これらの関数をアプリケーションで使用しないユーザは、この特定のドライバインタフェース関数の実装をスキップすることができます。

アプリケーションで f_sync 関数を使用する場合はコマンド CTRL_SYNC を実装してください。

コマンド CTRL_SYNC は、保留中の書き込みプロセスを終了するためのコードから構成する必要があります。ディスク I/O モジュールが書き戻しキャッシュを持つ場合、ダーティセクタは直ちにフラッシュされます。f_sync 関数は、引数として渡すファイルオブジェクトと関連する保存されていないデータを保存します。

その他のコマンドについては、表 3.2 汎用コマンド をご覧ください。

4.6.5 flash spi disk status

本関数は、ディスク・ドライブの状態取得を行います。

Format

```
#include " r_tfat_drv_if_dev.h "
DSTATUS flash spi disk status (uint8 t drive );
```

Parameters

drive 入力 物理的なドライブ番号を指定します。

Return Value

RES_OK 正常終了

RES OK 以外 「2.10 戻り値」に記載した関数実行後のディスクステータス

Description

この関数は、ディスクをチェックするコードから構成し、現在のディスクステータスを返します。ディスクステータスは、「2.10 戻り値」に記載するように3つの値のいずれかになります。 ディスクステータスは、ディスクステータスと関連するマクロを使用して戻り値を更新することにより、返すことができます。

4.6.6 flash_spi_1ms_interval 本関数は、1 ms ごとに内部タイマを更新します。

Format

```
#include " r_tfat_drv_if_dev.h "
void flash spi 1ms interval (void);
```

Parameters

なし

Return Value

なし

Description

この関数は、1 ms ごとに TFAT driver FIT 内部のタイマを更新します。このタイマは Serial Flash memory に対してビジー状態の確認のために使用されます。

RX ファミリ

M3S-TFAT-Tiny メモリドライバインタフェースモジュール Firmware Integration Technology

5. 端子設定

TFAT driver FIT に端子設定はありません。

6. 付録

6.1 動作確認環境

本 FIT モジュールの動作確認環境を以下に示します。

表 6.1 動作確認環境 (Rev.1.05。SD メモリカードドライバ用, USB Mini ドライバ用)

項目	内容			
統合開発環境	ルネサスエレクトロニクス製 e² studio V6.3.0			
Cコンパイラ	ルネサスエレクトロニクス製 C/C++ Compiler for RX Family V2.08.00			
	コンパイルオプション:統合開発環境のデフォルト設定に以下のオプション			
	を追加			
	-lang = c99			
エンディアン	ビッグエンディアン/リトルエンディアン			
モジュールのリビジョン	Rev.1.05			
使用ボード	Renesas Starter Kit+ for RX64M (型名: R0K50564MSxxxxx)			
	Renesas Starter Kit for RX231 (型名:R0K505231Sxxxxx)			
RTOS	なし			

表 6.2 動作確認環境 (Rev.1.05。USB ドライバ用)

項目	内容			
統合開発環境	ルネサスエレクトロニクス製 e² studio V7.3.0			
Cコンパイラ	ルネサスエレクトロニクス製 C/C++ Compiler for RX Family V3.01.00			
	コンパイルオプション:統合開発環境のデフォルト設定に以下のオプション			
	を追加			
	-lang = c99			
エンディアン	ビッグエンディアン/リトルエンディアン			
モジュールのリビジョン	Rev.1.05			
使用ボード	Renesas Starter Kit+ for RX64M (型名:R0K50564MSxxxxx)			
RTOS	なし			

表 6.3 動作確認環境 (Rev.2.00)

項目	内容			
統合開発環境	ルネサスエレクトロニクス製 e² studio V7.7.0			
	IAR Embedded Workbench for Renesas RX 4.13.1			
Cコンパイラ	ルネサスエレクトロニクス製 C/C++ Compiler for RX Family V3.02.00			
	コンパイルオプション:統合開発環のデフォルト設定に以下のオプションを			
	追加			
	-lang = c99			
	GCC for Renesas RX 8.3.0.201904			
	コンパイルオプション:統合開発環境のデフォルト設定に以下のオプション			
	を追加			
	-std=gnu99			
	IAR C/C++ Compiler for Renesas RX version 4.13.1			
	コンパイルオプション:統合開発環境のデフォルト設定			
エンディアン	ビッグエンディアン/リトルエンディアン			
モジュールのリビジョン	Rev.2.00			
使用ボード	Renesas Starter Kit+ for RX72M (型名:RTK5572Mxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx			
RTOS	FreeRTOS V10.0.00			
	RI600V4 V1.06.00			

表 6.4 動作確認環境 (Rev.2.10)

項目	内容			
統合開発環境	ルネサスエレクトロニクス製 e² studio V7.8.0			
	IAR Embedded Workbench for Renesas RX 4.14.1			
Cコンパイラ	ルネサスエレクトロニクス製 C/C++ Compiler for RX Family V3.02.00			
	コンパイルオプション:統合開発環のデフォルト設定に以下のオプションを			
	追加			
	-lang = c99			
	GCC for Renesas RX 8.3.0.201904			
	コンパイルオプション:統合開発環境のデフォルト設定に以下のオプション			
	を追加			
	-std=gnu99			
	IAR C/C++ Compiler for Renesas RX version 4.14.1			
	コンパイルオプション:統合開発環境のデフォルト設定			
エンディアン	ビッグエンディアン/リトルエンディアン			
モジュールのリビジョン	Rev.2.10			
使用ボード	Renesas Starter Kit for RX231 (型名: RTK55231xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx			
	Renesas Starter Kit+ for RX64M (型名:RTK5564Mxxxxxxxxxxxx)			
RTOS	FreeRTOS V10.0.00			
	RI600V4 V1.06.00			

表 6.5 動作確認環境 (Rev.2.20)

項目	内容			
統合開発環境	ルネサスエレクトロニクス製 e ² studio 2020-07			
	IAR Embedded Workbench for Renesas RX 4.14.1			
Cコンパイラ	ルネサスエレクトロニクス製 C/C++ Compiler for RX Family V3.02.00			
	コンパイルオプション:統合開発環のデフォルト設定に以下のオプションを			
	追加			
	-lang = c99			
	GCC for Renesas RX 8.3.0.202002			
	コンパイルオプション:統合開発環境のデフォルト設定に以下のオプション			
	を追加			
	-std=gnu99			
	IAR C/C++ Compiler for Renesas RX version 4.14.1			
	コンパイルオプション:統合開発環境のデフォルト設定			
エンディアン	ビッグエンディアン/リトルエンディアン			
モジュールのリビジョン	Rev.2.20			
使用ボード	Renesas Starter Kit for RX231 (型名:RTK55231xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx			
	Renesas Starter Kit+ for RX72N (型名:RTK5572Nxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx			
	Renesas Starter Kit+ for RX72M (型名:RTK5572Mxxxxxxxxxxx)			
RTOS	FreeRTOS V10.0.03			
	RI600V4 V1.06.00			

表 6.6 動作確認環境 (Rev.2.30)

項目	内容			
統合開発環境	ルネサスエレクトロニクス製 e ² studio 2023-07			
	IAR Embedded Workbench for Renesas RX 4.20.3			
Cコンパイラ	ルネサスエレクトロニクス製 C/C++ Compiler for RX Family V3.05.00			
	コンパイルオプション:統合開発環のデフォルト設定に以下のオプションを 追加			
	-lang = c99			
	GCC for Renesas RX 8.3.0.202305			
	コンパイルオプション:統合開発環境のデフォルト設定に以下のオプション			
	を追加			
	-std=gnu99			
	IAR C/C++ Compiler for Renesas RX version 4.20.3			
	コンパイルオプション:統合開発環境のデフォルト設定			
エンディアン	ビッグエンディアン/リトルエンディアン			
モジュールのリビジョン	Rev.2.30			
使用ボード	Renesas Starter Kit+ for RX72M (型名:RTK5572Mxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx			
RTOS	FreeRTOS V10.4.3			
	RI600V4 V1.06.01			

表 6.7 動作確認環境 (Rev.2.40)

項目	内容			
統合開発環境	ネサスエレクトロニクス製 e ² studio 2023-10			
	IAR Embedded Workbench for Renesas RX 4.20.3			
Cコンパイラ	ルネサスエレクトロニクス製 C/C++ Compiler for RX Family V3.05.00			
	コンパイルオプション:統合開発環のデフォルト設定に以下のオプションを			
	追加			
	-lang = c99			
	GCC for Renesas RX 8.3.0.202305			
	コンパイルオプション:統合開発環境のデフォルト設定に以下のオプション			
	を追加			
	-std=gnu99			
	IAR C/C++ Compiler for Renesas RX version 4.20.3			
	コンパイルオプション:統合開発環境のデフォルト設定			
エンディアン	ビッグエンディアン/リトルエンディアン			
モジュールのリビジョン	Rev.2.40			
使用ボード	Renesas Starter Kit+ for RX72M (型名:RTK5572Mxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx			
RTOS	なし			

表 6.8 動作確認環境 (Rev.2.50)

項目	内容			
統合開発環境	ルネサスエレクトロニクス製 e ² studio 2024-07			
	IAR Embedded Workbench for Renesas RX 5.10.1			
Cコンパイラ	ルネサスエレクトロニクス製 C/C++ Compiler for RX Family V3.06.00			
	コンパイルオプション:統合開発環のデフォルト設定に以下のオプションを			
	追加			
	-lang = c99			
	GCC for Renesas RX 8.3.0.202405			
	コンパイルオプション:統合開発環境のデフォルト設定に以下のオプション			
	を追加			
	-std=gnu99			
	IAR C/C++ Compiler for Renesas RX version 5.10.1			
	コンパイルオプション:統合開発環境のデフォルト設定			
エンディアン	ビッグエンディアン/リトルエンディアン			
モジュールのリビジョン	Rev.2.50			
使用ボード	Renesas Target Board for RX140 (product No.: RTK5RX1400xxxxxxxx)			
	Renesas Starter Kit+ for RX140 (product No.: RTK551406Bxxxxxxxxx)			
	Renesas Starter Kit+ for RX64M (product No.: R0K50564Mxxxxxx)			
	Renesas Starter Kit+ for RX65N-2MB (product No.: RTK50565Nxxxxxxxxxx)			
	Renesas Starter Kit+ for RX72M (product No.: RTK5572Mxxxxxxxxxx)			
RTOS	FreeRTOS V10.4.3			

6.2 トラブルシューティング

(1) Q:本 FIT モジュールをプロジェクトに追加しましたが、ビルド実行すると「Could not open source file "platform.h"」エラーが発生します。

A: FIT モジュールがプロジェクトに正しく追加されていない可能性があります。プロジェクトへの追加方法をご確認ください。

- CS+を使用している場合 アプリケーションノート RX ファミリ CS+に組み込む方法 Firmware Integration Technology (R01AN1826)」
- e² studio を使用している場合 アプリケーションノート RX ファミリ e² studio に組み込む方法 Firmware Integration Technology (R01AN1723)」

また、本 FIT モジュールを使用する場合、ボードサポートパッケージ FIT モジュール(BSP モジュール) もプロジェクトに追加する必要があります。BSP モジュールの追加方法は、アプリケーションノート 「ボードサポートパッケージモジュール(R01AN1685)」を参照してください。

(2) Q:本 FIT モジュールをプロジェクトに追加しましたが、ビルド実行すると「This MCU is not supported by the current r_tfat_rx_rx module.」エラーが発生します。

A: 追加した FIT モジュールがユーザプロジェクトのターゲットデバイスに対応していない可能性があります。追加した FIT モジュールの対象デバイスを確認してください。

(3) Q:本 FIT モジュールをプロジェクトに追加しましたが、ビルド実行するとコンフィグ設定が間違っている旨のエラーが発生します。

A: "r_tfat_driver_rx_config.h" ファイルの設定値が間違っている可能性があります。
"r_tfat_driver_rx_config.h" ファイルを確認して正しい値を設定してください。詳細は「2.7 コンパイル時の設定」を参照してください。

(4) Q:端子設定していない場合発生する現象が発生します。

A:正しく端子設定が行われていない可能性があります。本 FIT モジュールを使用する場合は端子設定が必要です。詳細は「5 端子設定」を参照してください。

RXファミリ

M3S-TFAT-Tiny メモリドライバインタフェースモジュール Firmware Integration Technology

7. 参考ドキュメント

ユーザーズマニュアル: ハードウェア (最新版をルネサス エレクトロニクスホームページから入手してください。)

テクニカルアップデート/テクニカルニュース (最新の情報をルネサス エレクトロニクスホームページから入手してください。)

ユーザーズマニュアル: 開発環境 RX ファミリ CC-RX コンパイラ ユーザーズマニュアル (R20UT3248) (最新版をルネサス エレクトロニクスホームページから入手してください。)

テクニカルアップデートの対応について

テクニカルアップデートはありません。

改訂記録

		改訂内容	
Rev.	発行日	ページ	ポイント
1.00	2014.12.01	-	初版発行
1.01	2015.01.05	-	サポートマイコン追加
1.02	2015.06.30	-	サポートマイコン(RX231)追加
1.03	2016.10.01	-	サポート(RX ファミリ)追加
1.04	2018.06.29	-	1.2.2 図 1-1 呼び出しモジュールに System timer、CMT 追加
			1.3 API 概要 追加
			2.6 SD メモリカード定義名変更
			2.7 コードサイズ 追加
			3.6 get_fattime() 説明修正
			4.2.1-4.2.5 API 名変更
			5 付録 追加
			6 参考ドキュメント 追加
1.05	2018.12.14	-	USB ドライバの RTOS サポートによるリビジョンアップ
2.00	2020.02.25	-	以下のコンパイラに対応
			GCC for Renesas RX
			IAR C/C++ Compiler for Renesas RX
			以下の RTOS に対応
			• FreeRTOS
			• RI600V4
			関数名から「R_TFAT_」を削除しました。
2.10	2020.07.27	-	・以下の記憶メディアに対応
			• eMMC
			• Serial Flash memory
			・以下の記憶メディアに対しフォーマット機能
			(f_mkfs)を追加
			• eMMC
			• Serial Flash memory
			・セクタ・サイズ 4096 バイトに対応
			・USB mini FIT を使用するデバイスと以下の RTOS の 組み合わせに対応
			・FreeRTOS
			• RI600V4
2.20	2020.09.10	-	・以下の記憶メディアに対しフォーマット機能
			(f mkfs)を追加
			・SDメモリカード
			· USB

		改訂内容		
Rev.	発行日	ページ	ポイント	
2.20	2020.09.10	プログラム	ソフトウェア不具合のため、TFAT driver FIT モジュー ルを改修	
			■内容 eMMC の GET_BLOCK_SIZE コマンドで取得した BLOCK SIZE が不正値である。	
			■発生条件 次の2つの条件に該当したとき ・TFAT driver FIT モジュール Rev.2.10 のバージョン をご使用されている ・eMMC をフォーマットする	
			■対策 TFAT driver FIT モジュール Rev2.20 以降をご使用くだ さい。	
		プログラム	ソフトウェア不具合のため、TFAT driver FIT モジュー ルを改修	
			■内容 Serial Flash memory の GET_BLOCK_SIZE コマンドで取得した BLOCK SIZE が不正値である。 Serial Flash memory の size が非常に大きい場合、 フォーマット処理の時間が長くなり、使用可能なメモリも小さくなってしまう現象が発生する。	
			■発生条件 次の 2 つの条件に該当したとき ・TFAT driver FIT モジュール Rev.2.10 のバージョン をご使用されている ・Serial Flash memory をフォーマットする	
			■対策 TFAT driver FIT モジュール Rev2.20 以降をご使用くだ さい。	
2.30	2023.08.31	16 21, 23	「2.11 FIT モジュールの使用方法」 オープンソースのベースバージョンを V0.13c→V0.15 に変更	
		プログラム	に変更	
2.40	2023.12.15	9	表 1.2 の FIT モジュールバージョンを更新。 TFAT および Serial Flash Memory を使用する場合はセ クタサイズ設定オプションを更新しました。	
		14	「2.8 コードサイズ」セクションを更新。	
		17 66	2.12「for 文、while 文、do while 文について」を追加。 6.1 動作確認環境:	
			Rev.2.40 の表を追加。	

RX ファミリ

M3S-TFAT-Tiny メモリドライバインタフェースモジュール Firmware Integration Technology

		改訂内容		
Rev.	発行日	ページ	ポイント	
2.40	2023.12.15	プログラム	選択可能なシリアルフラッシュ FAT セクタサイズのサ	
			ポートを追加。	
2.50	2024.09.16	2, 8, 29	SPI モード SD カードのサポートを更新	
		3	SPI モード SD カードモジュールに関連するドキュメン	
			トを追加	
		7	FIT モジュールバージョンを更新	
		9	表 1.2 の SPI モード SD カードモジュールのサポートを	
			更新	
			表 1.2 の FIT モジュールバージョンを更新	
		12	TFAT および SPI モード SD カードメモリを使用する際	
			の構成オプションを追加	
		14	「2.8 コードサイズ」セクションを更新。	
		42-47	SPI モード SD カードをサポート	
		72	6.1 動作確認環境:	
			Rev.2.50 の表を追加。	
		プログラム	SPI モード SD カードをサポート	

製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本ドキュメントおよびテクニカルアップデートを参照してください。

1. 静電気対策

CMOS 製品の取り扱いの際は静電気防止を心がけてください。CMOS 製品は強い静電気によってゲート絶縁破壊を生じることがあります。運搬や保存の際には、当社が出荷梱包に使用している導電性のトレーやマガジンケース、導電性の緩衝材、金属ケースなどを利用し、組み立て工程にはアースを施してください。プラスチック板上に放置したり、端子を触ったりしないでください。また、CMOS 製品を実装したボードについても同様の扱いをしてください。

2. 電源投入時の処置

電源投入時は、製品の状態は不定です。電源投入時には、LSIの内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。外部 リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。同様に、内蔵パワーオン リセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。

3. 電源オフ時における入力信号

当該製品の電源がオフ状態のときに、入力信号や入出力プルアップ電源を入れないでください。入力信号や入出力プルアップ電源からの電流注入により、誤動作を引き起こしたり、異常電流が流れ内部素子を劣化させたりする場合があります。資料中に「電源オフ時における入力信号」についての記載のある製品は、その内容を守ってください。

4. 未使用端子の処理

未使用端子は、「未使用端子の処理」に従って処理してください。CMOS製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI周辺のノイズが印加され、LSI内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。

5. クロックについて

リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後に切り替えてください。リセット時、外部発振子(または外部発振回路)を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子(または外部発振回路)を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。

6 入力端子の印加波形

入力ノイズや反射波による波形歪みは誤動作の原因になりますので注意してください。CMOS 製品の入力がノイズなどに起因して、 V_{IL} (Max.) から V_{IH} (Min.) までの領域にとどまるような場合は、誤動作を引き起こす恐れがあります。入力レベルが固定の場合はもちろん、 V_{IL} (Max.) から V_{IH} (Min.) までの領域を通過する遷移期間中にチャタリングノイズなどが入らないように使用してください。

7. リザーブアドレス (予約領域) のアクセス禁止

リザーブアドレス (予約領域) のアクセスを禁止します。アドレス領域には、将来の拡張機能用に割り付けられている リザーブアドレス (予約領域) があります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。

8. 製品間の相違について

型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。同じグループのマイコンでも型名が違うと、フラッシュメモリ、レイアウトパターンの相違などにより、電気的特性の範囲で、特性値、動作マージン、ノイズ耐量、ノイズ幅射量などが異なる場合があります。型名が違う製品に変更する場合は、個々の製品ごとにシステム評価試験を実施してください。

ご注意書き

- 1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合、お客様の責任において、お客様の機器・システムを設計ください。これらの使用に起因して生じた損害(お客様または第三者いずれに生じた損害も含みます。以下同じです。)に関し、当社は、一切その責任を負いません。
- 2. 当社製品または本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許 権、著作権その他の知的財産権に対する侵害またはこれらに関する紛争について、当社は、何らの保証を行うものではなく、また責任を負うもので はありません。
- 3. 当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
- 4. 当社製品を組み込んだ製品の輸出入、製造、販売、利用、配布その他の行為を行うにあたり、第三者保有の技術の利用に関するライセンスが必要となる場合、当該ライセンス取得の判断および取得はお客様の責任において行ってください。
- 5. 当社製品を、全部または一部を問わず、改造、改変、複製、リバースエンジニアリング、その他、不適切に使用しないでください。かかる改造、改変、複製、リバースエンジニアリング等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
- 6. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図 しております。

標準水準: コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等

高品質水準:輸送機器(自動車、電車、船舶等)、交通制御(信号)、大規模通信機器、金融端末基幹システム、各種安全制御装置等 当社製品は、データシート等により高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム(生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等)、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム(宇宙機器と、海底中継器、原子力制御システム、航空機制御システム、プラント基幹システム、軍事機器等)に使用されることを意図しておらず、これらの用途に使用することは想定していません。たとえ、当社が想定していない用途に当社製品を使用したことにより損害が生じても、当社は一切その責任を負いません。

- 7. あらゆる半導体製品は、外部攻撃からの安全性を 100%保証されているわけではありません。当社ハードウェア/ソフトウェア製品にはセキュリティ対策が組み込まれているものもありますが、これによって、当社は、セキュリティ脆弱性または侵害(当社製品または当社製品が使用されているシステムに対する不正アクセス・不正使用を含みますが、これに限りません。) から生じる責任を負うものではありません。当社は、当社製品または当社製品が使用されたあらゆるシステムが、不正な改変、攻撃、ウイルス、干渉、ハッキング、データの破壊または窃盗その他の不正な侵入行為(「脆弱性問題」といいます。) によって影響を受けないことを保証しません。当社は、脆弱性問題に起因しまたはこれに関連して生じた損害について、一切責任を負いません。また、法令において認められる限りにおいて、本資料および当社ハードウェア/ソフトウェア製品について、商品性および特定目的との合致に関する保証ならびに第三者の権利を侵害しないことの保証を含め、明示または黙示のいかなる保証も行いません。
- 8. 当社製品をご使用の際は、最新の製品情報(データシート、ユーザーズマニュアル、アプリケーションノート、信頼性ハンドブックに記載の「半導体デバイスの使用上の一般的な注意事項」等)をご確認の上、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他指定条件の範囲内でご使用ください。指定条件の範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障、誤動作の不具合および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
- 9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は、データシート等において高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、耐放射線設計を行っておりません。仮に当社製品の故障または誤動作が生じた場合であっても、人身事故、火災事故その他社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
- 10. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用 を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。かかる法令を遵守しないことに より生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
- 11. 当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。当社製品および技術を輸出、販売または移転等する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他日本国および適用される外国の輸出管理関連法規を遵守し、それらの定めるところに従い必要な手続きを行ってください。
- 12. お客様が当社製品を第三者に転売等される場合には、事前に当該第三者に対して、本ご注意書き記載の諸条件を通知する責任を負うものといたします
- 13. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。
- 14. 本資料に記載されている内容または当社製品についてご不明な点がございましたら、当社の営業担当者までお問合せください。
- 注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社が直接的、間接的 に支配する会社をいいます。
- 注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注1において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

(Rev.5.0-1 2020.10)

本社所在地

〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24 (豊洲フォレシア)

www.renesas.com

商標について

ルネサスおよびルネサスロゴはルネサス エレクトロニクス株式会社の 商標です。すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属 します。

お問合せ窓口

弊社の製品や技術、ドキュメントの最新情報、最寄の営業お問合せ窓口に関する情報などは、弊社ウェブサイトをご覧ください。

www.renesas.com/contact/